

海域管理計画モニタリング評価シート(案)・鳥澤&三宅委員修正

1. 調査対象に係る基本事項

構成要素	4. 魚介類
対応方針 または 保護管理 の考え方	知床周辺海域のモニタリングや各種調査、情報収集に努め、地域の漁業者・漁業団体による自主的な取組を踏まえながら、漁業法や水産資源保護法等の関係法令に基づいて、サケ類やスケトウダラの適切な資源管理と持続的な利用を推進する。

2. 調査対象

海水		水温・水質・クロロフィルa・プランクトンなど	生物相	有害物質
サケ類	○	スケトウダラ	トド	アザラシ
海鳥類		海ワシ類	利用の適正化	

3. 調査・モニタリング表

調査名称等	主な内容	06	07	08	09	10
17.我が国周辺水域の漁業資源評価 (水産総合研究センター、北水研、水試、北大)	スケトウダラの資源量の把握と評価	○	○	○	○	○
18.北海道水産現勢 (漁協 (調査依頼機関:北海道))	漁獲量の推移	○	○	○	○	
19.繁殖行動等調査 (北大 (調査依頼機関:環境省))	水中ロボットカメラによる繁殖行動の観測	○	○	○		

4. 評価

評 価	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね横ばい <input type="checkbox"/> 減少	科全、羅口で採れていて漁獲量及び漁獲金額の変化傾向は異なり、近年は、科全では増加傾向、羅口では減少傾向にある。 根室海峡の漁獲量はピーク時の10分の1程度まで落ち込んでおり、ここ数年は漁獲量は横ばいで推移している。 羅臼側においては、水温など環境変化の影響によると考えられる漁場、漁期の変化が認められており、これに伴い産卵期の漁獲量が減少しているが、羅臼の南側の標津などで産卵期以外の漁獲量が増加している。 禁漁区の設定など漁業者自らで行う規制する努力などもあり、低いながらも資源は維持されているが、索餌群の混獲についても把握していくほか、ロシア側の漁獲の状況についても国レベルでの対応も必要
	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善継続 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 新規	安定した漁業を維持していくために、漁業者による自主規制など資源保護への取り組みの協力も得ていく一方で資源量のモニタリングは継続していく必要がある。 また資源量の確保のためには政府間によるロシアとの交渉によるもののほか、日露両国における学術的観点からの交流についても進め情報の共有化図っていくことが効果的
今後の方向性		
備 考		

5. 調査、モニタリングの概要 1/3

調査・モニタリング名	17.我が国周辺水域の漁業資源評価
主な内容	スケトウダラの資源量の把握と評価
対象地域	根室海峡域
頻度	通年
調査主体	(独)水産総合研究センター北海道区水産研究所、水産試験場(釧路、稚内、中央)、北大(調査依頼機関:水産庁)

調査結果概要

【結果】
 漁獲量は、1989年度に過去最高の111千トンに達したのち急激に減少し、1994年度には15千トンまで落込み、その後も低迷を続け、2000年度には過去最低の7.8千トンとなった(図42)。2008年度の漁獲量は前年並みの9.9千トンであった。1986～1992年度には、ロシアのトロール船団が根室海域を含む国後島～ウルップ島のオホーツク海沿岸において15千～172千トンの漁獲をあげたが、2004年度以降は1千トン前後であった。なお、漁獲量は漁期年(4月～翌年3月)で集計した。

【資源の状態】

- ・ 日本漁船による漁獲量やCPUE、漁獲物組成などを主に、ロシア側の情報も考慮して資源状態を推測した。
- ・ 2008年度の漁獲量9.9千トンは低水準に属する。
- ・ 根室海峡の産卵群は概ね横ばい傾向にあると推測し、動向は横ばいと判断した。従来の主漁期に行われる刺し網及びはえなわの漁獲量とCPUEは減少傾向を示しているが、その他漁業による漁獲が2004年度以降横ばいと表現の原因となっている。

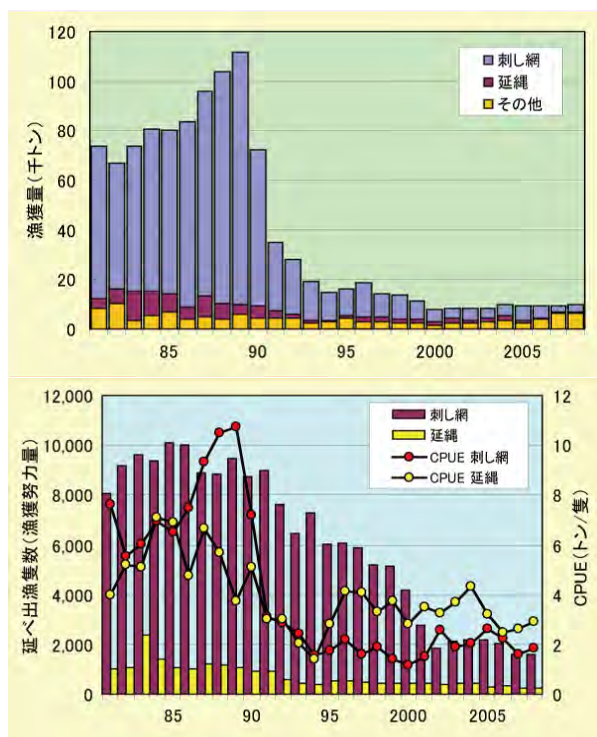


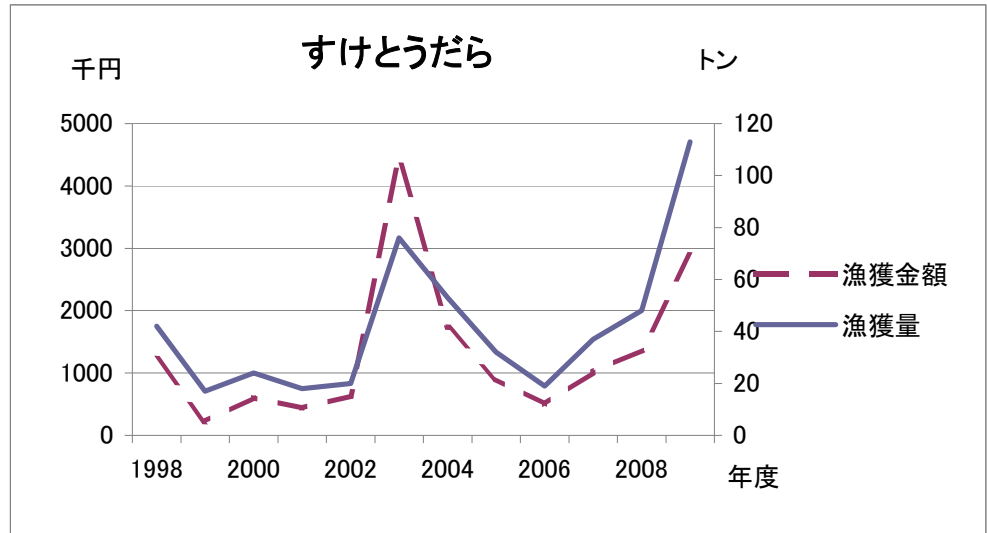
図 スケトウダラの漁獲の動向(根室海峡)
 図出典: 水産庁「平成21年度 我が国周辺水域の漁業資源評価 ダイジェスト版」

5. 調査、モニタリングの概要 2/3

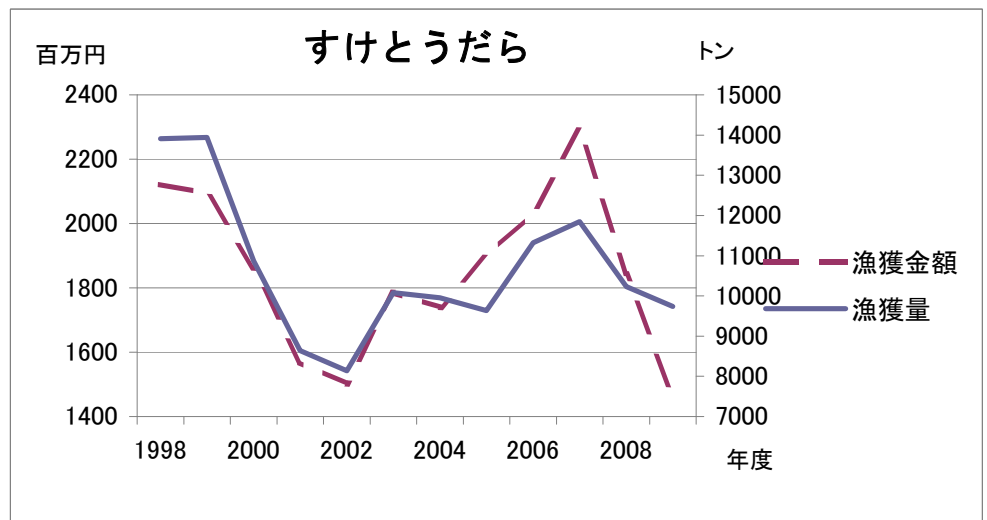
調査・モニタリング名	18.北海道水産現勢
主な内容	漁獲量の推移
対象地域	斜里町、羅臼町
頻度	毎年
調査主体	漁協(調査依頼機関:北海道)

調査結果概要

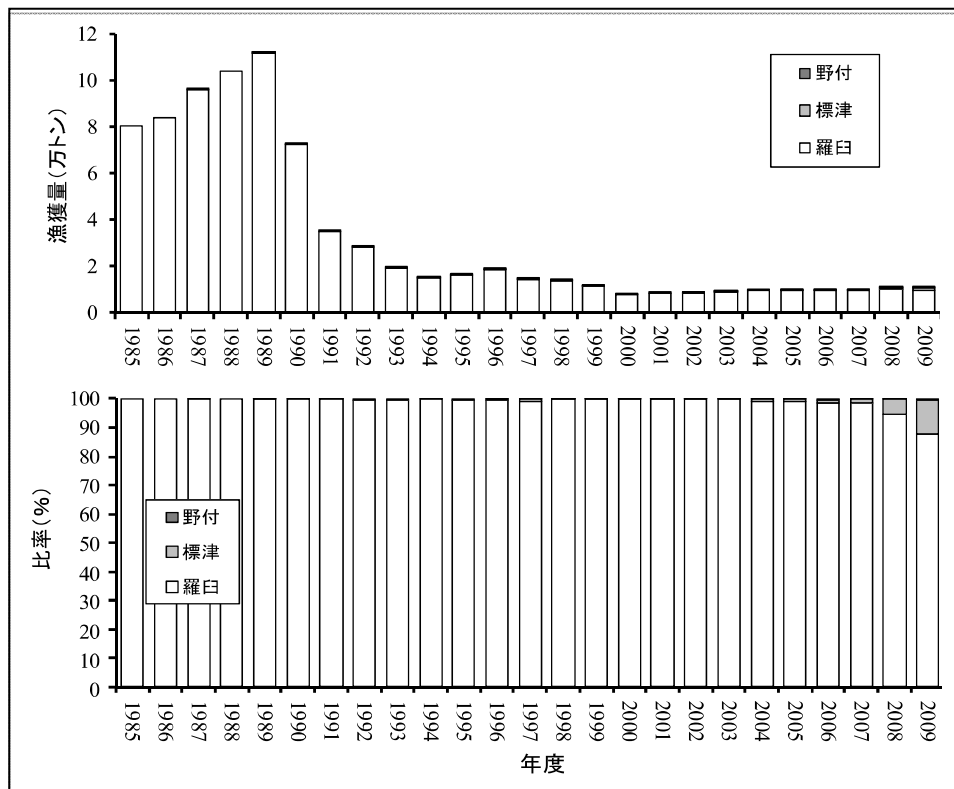
斜里町におけるスケトウダラの漁獲量の推移(漁獲金額も併記)







羅臼町におけるスケトウダラの漁獲量の推移(漁獲金額も併記)



羅臼町とその近隣におけるスケトウダラ漁獲量の推移



5. 調査、モニタリングの概要 3/3

調査・モニタリング名	19.繁殖行動等調査
主な内容	水中ロボットカメラによる繁殖行動の観測
対象地域	羅臼陸棚
頻度	3月
調査主体	北大(調査依頼機関:環境省)
調査結果概要	<p>【2006年(平成18年)調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 11月20、21日に調査 ・ 調査地の岩場では、メバル属魚類が確認された。 <p>【2007年(平成19年)調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6月と1月に調査を実施 ・ ウトロ側の海域では、カジカ科魚類、カレイ科魚類が認められたが、分布密度は低い。 ・ ウトロ側の調査地点では、スケトウダラも観察したがその分布量は低い。(写真No.6) ・ 羅臼漁港沖では、カレイ科魚類、ツマグロカイジカ属魚類、メバル属魚類やスケトウダラ(No.22)などを観察した。 ・ 羅臼の南に位置する海域では、スケトウダラの死骸を確認した。(No.27) ・ 羅臼の沖合の海域ではスケトウダラなどを確認したが、その豊度は高くない。 <p>【2008年(平成20年)調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6月、9月及び1月に調査を実施 ・ ルシャ川の沖でスケトウダラの幼魚などを確認したが、その分布量は少なかった。 ・ ウトロ側先端部では、スケトウダラの幼魚が大量に遊泳しているのが確認された。(No.16) ・ 羅臼沖はウトロ側と異なり多くの魚類を観察することが出来た。 <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;">     </div> <p>【まとめ】</p> <p>当該海域は、水深、底質などの変化に伴って生物相も多様に異なり、生物の多様性に大きく寄与している可能性が示された。</p>